

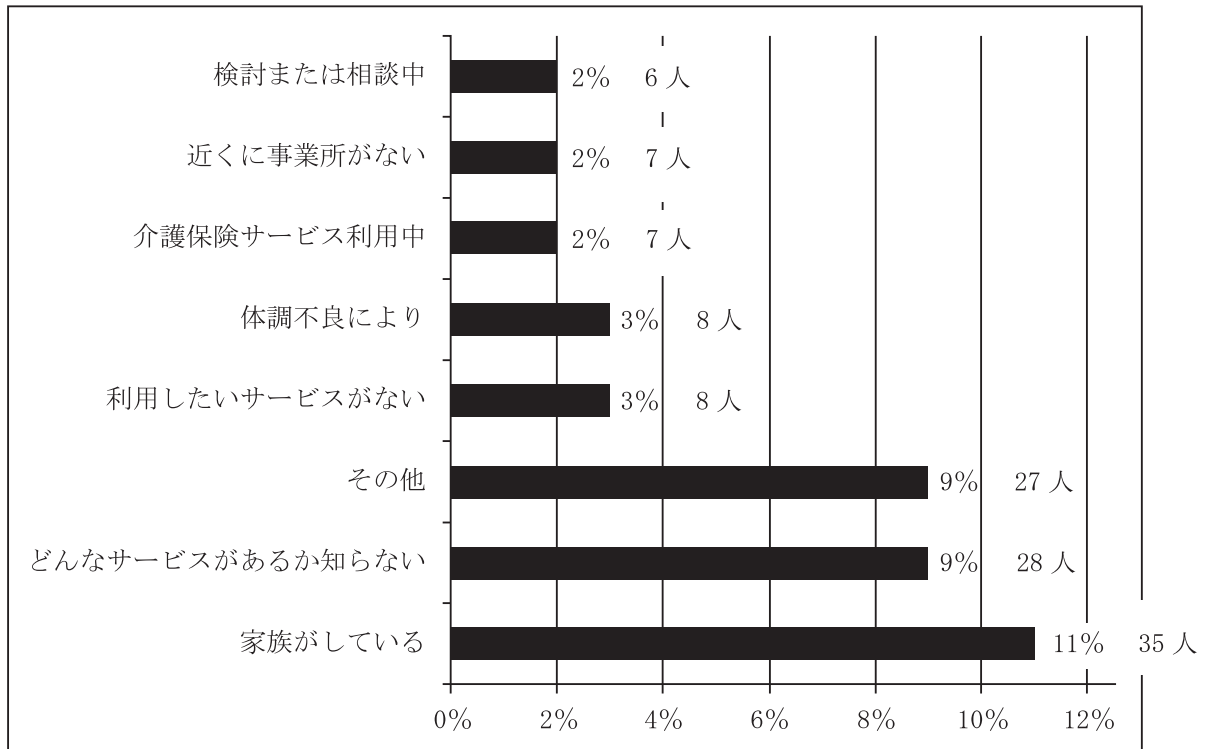
アンケート集計結果報告

1. 調査の目的 南国市の障害者の状況やニーズを把握し、南国市の実情にあった障害者基本計画及び障害福祉計画を策定するための資料とする。また、今後の南国市福祉行政の指標とする。
2. 対 象 南国市在住で下記条件に該当する方から無作為抽出した 316 人
- ① 身体障害者手帳をお持ちの方（視覚・聴覚・音声言語・肢体不自由・内部障害）
 - ② 療育手帳をお持ちの方（A 1・A 2・B 1・B 2）
 - ③ 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（1 級～3 級）
 - ④ 自立支援医療（精神通院医療）を受給されている方
 - ⑤ 難病患者の方で特定疾患医療受給者証をお持ちの方
 - ⑥ 高次脳機能障害
 - ⑦ 特別児童扶養手当受給者
 - ⑧ 地域活動支援センター利用者
 - ⑨ 障害福祉サービス受有者
 - ⑩ 保健福祉センターのミニデイ利用者
3. 調査方法 自宅もしくは施設へアンケート調査票を郵送または持参し、回答を記入していただき、返信用封筒にて返送していただく。無記名とする。
4. 調査時期 平成 26 年 9 月 11 日にアンケート調査票を発送。平成 26 年 10 月 10 日までに返送していただくこととする。

5. 回答状況

発送数	返送総数	回答率
316	154	48.7%

障害福祉サービスを受けていない理由

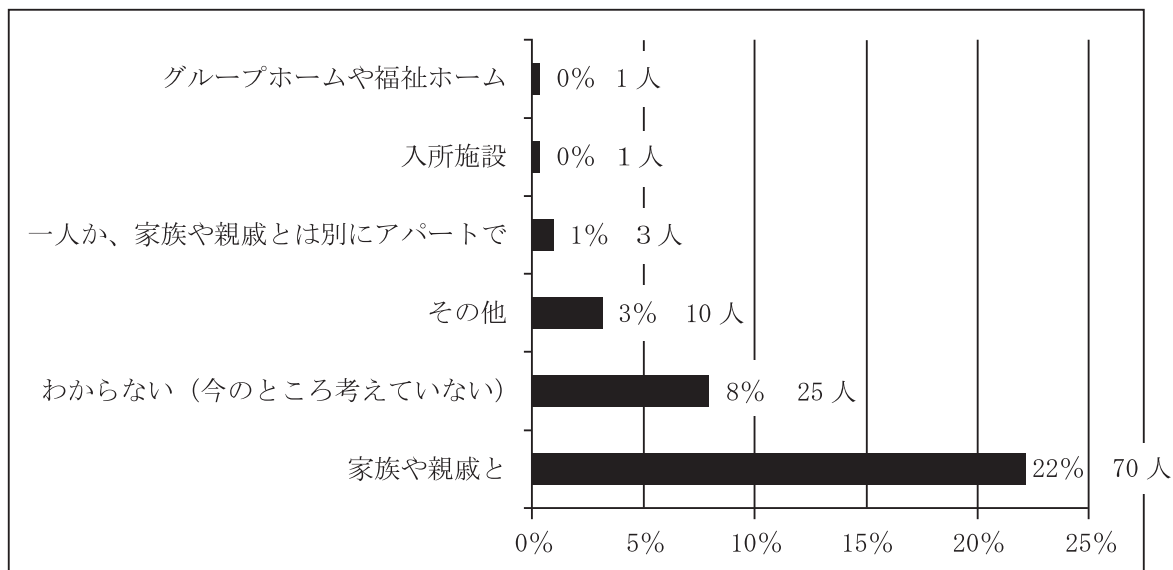


その他の意見（抜粋）

- 28日毎の点滴で病気により抑制されている。家族の手助けと道具の利用で暮らし方の工夫をしている。
- 利用する必要がある。
- 身体的に問題ない。
- 自宅で好きな時間帯に日常生活できればよいと思っている。

自分の体が動くうちは自分で自分の身の周りの事は行い、家族がいれば家族にお願いしたいと考えている方が大部分です。

どんなサービスがあるか知らないといった回答も多かったことから、制度の周知を広報・ホームページで情報提供していきます。



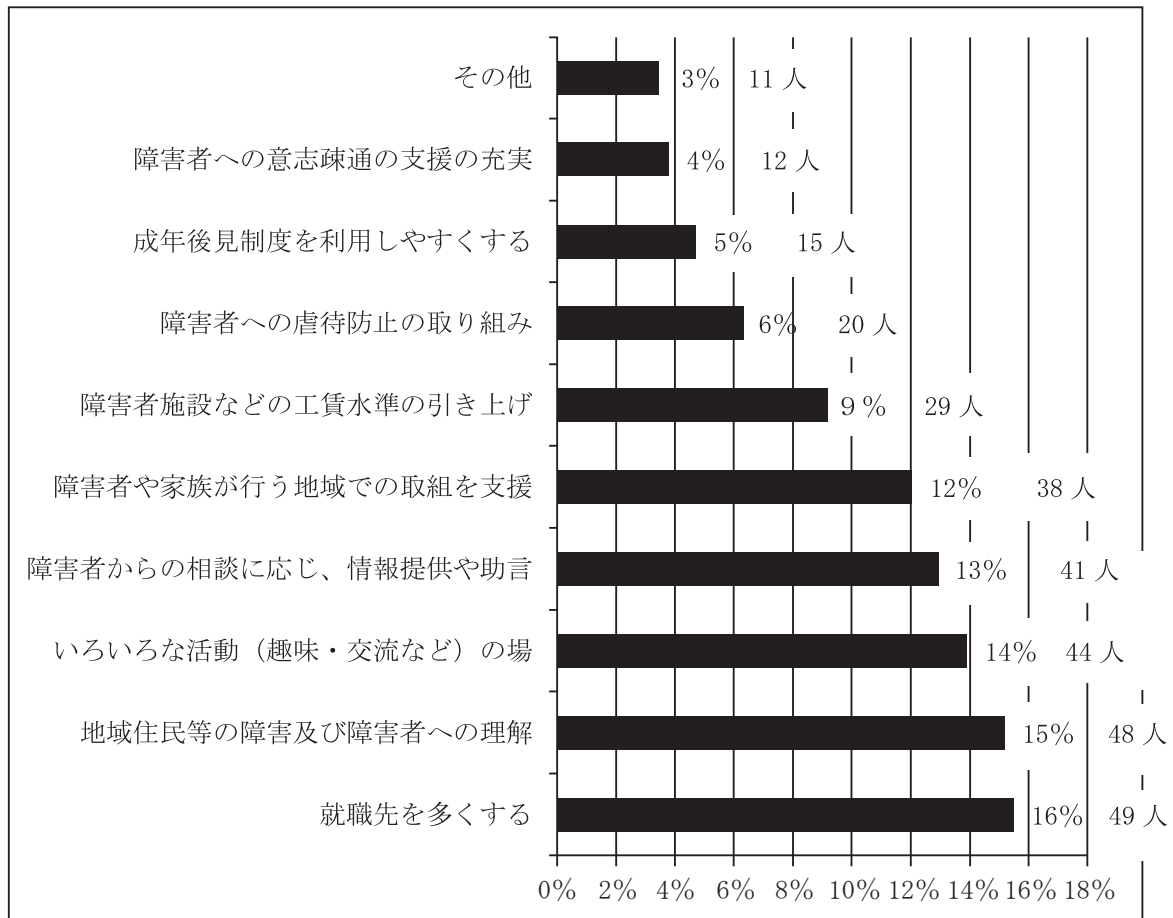
その他の意見（抜粋）

- 海拔の高い所で安心できる所。
- 障害の進行の度合いによって適切な場所を選んでいきたい。
- 年齢を重ねていくので、市役所、病院、買い物等車を利用しないで行ける中心部で暮らしたい。

現在、在宅の障害児・者は「ずっと自宅で暮らしたい」と回答し、施設利用中の人は「入所施設で暮らしたい」と回答する傾向がうかがえます。

「わからない」と回答した人も多く、自分自身では判断できない、もしくは難しい人が多いということもうかがえます。

障害福祉に必要だと思うこと



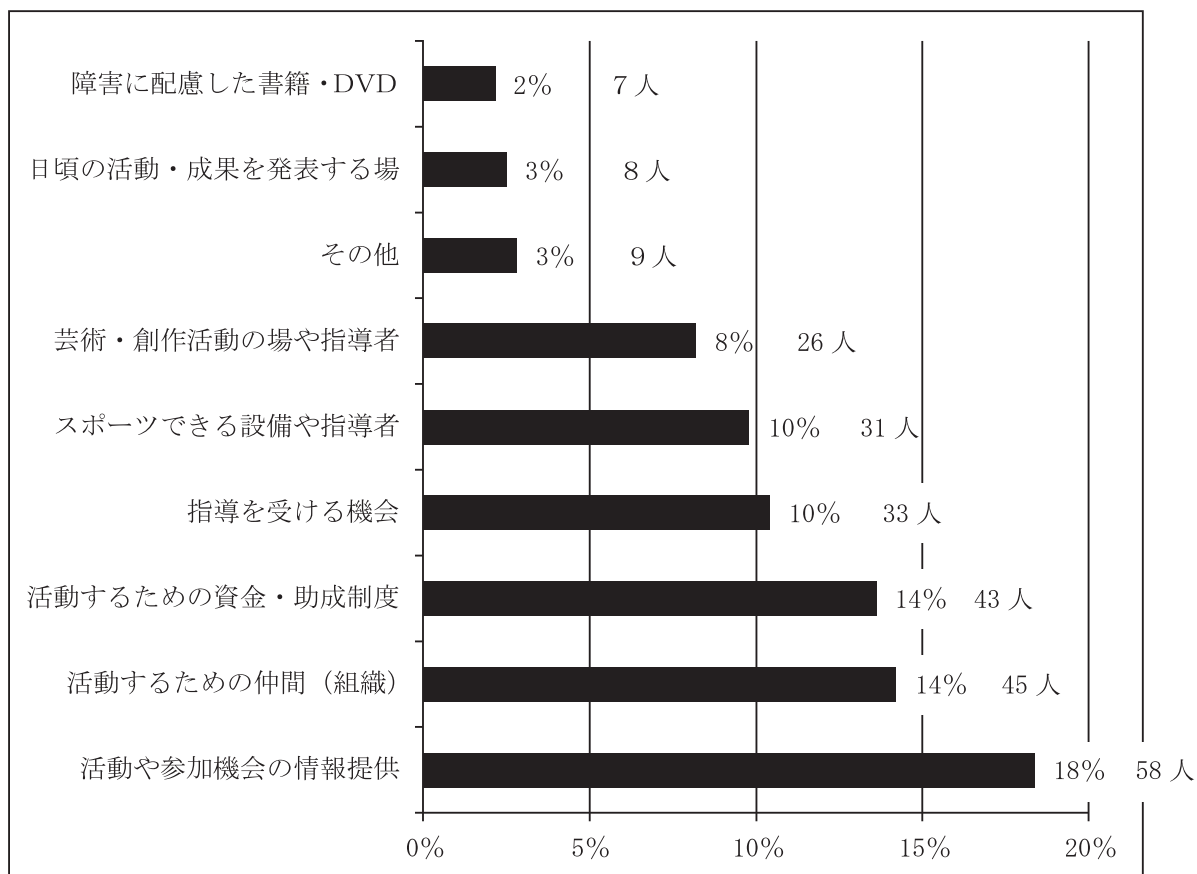
その他の意見（抜粋）

- ケアマネージャー、ヘルパー、看護師、医師の資質の向上。
- 年金をもっと上げてください。
- 車いすで利用できる施設、公共交通の充実、トイレ、ホテル等の充実。
- 災害時に薬や水等が必要に応じて届けられること。

障害があっても社会の一員として生活していくことに結果が多く集まっています。自立して持てる力を十分発揮できる環境にあることを求めているとうかがえます。

就職や障害への理解、活動の場、相談など行政のこれまでの施策をふりかえり、十分であったか評価をし、期待に応えられるよう取り組みをすすめていきます。

充実した生活をおくるために必要なこと



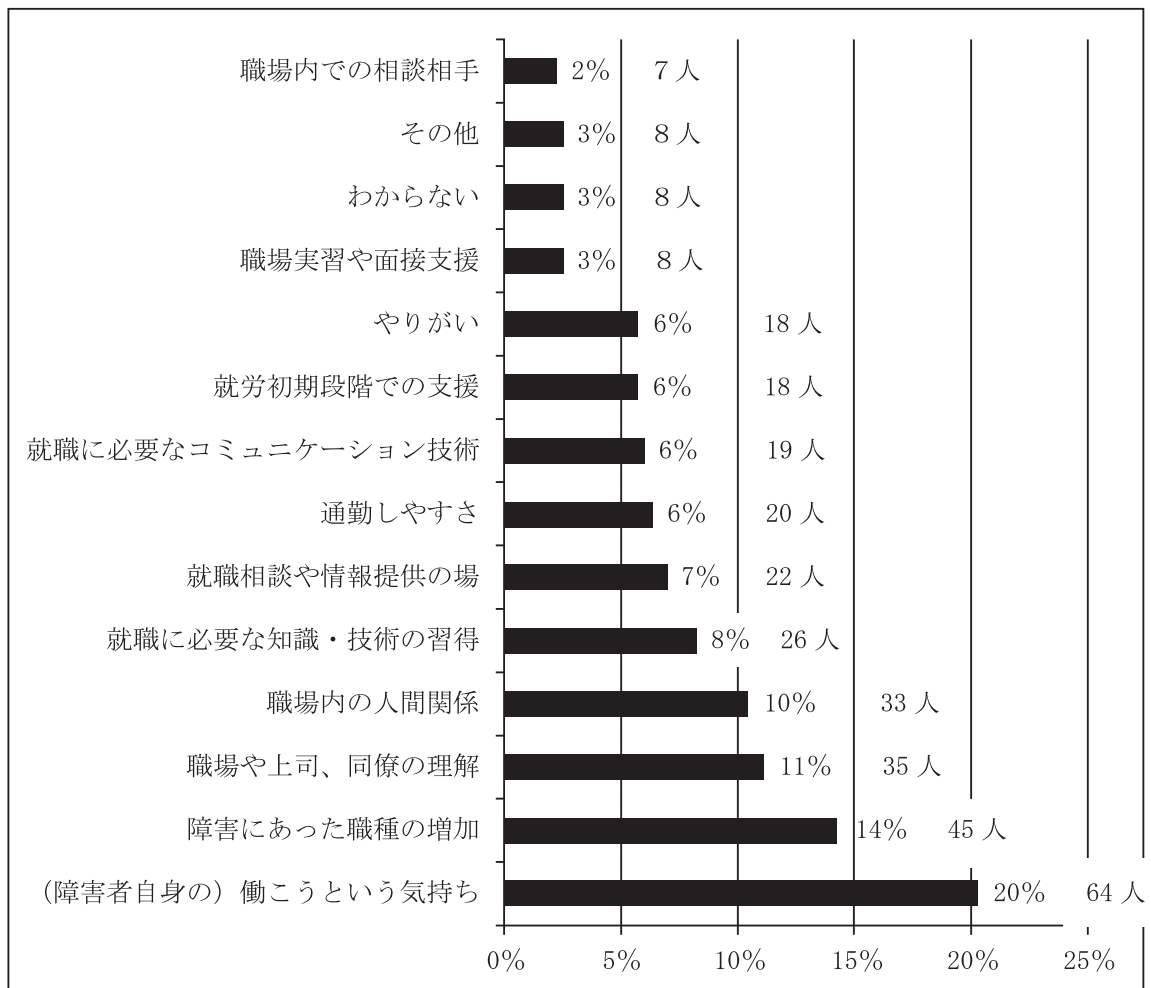
その他の意見（抜粋）

- 健康
- 就職先を多くしてほしい。
- 自宅で生活するための手助け。

「活動や参加機会の情報提供」に最も回答が多いです。世の中に多くあふれている情報の中から、自身の障害の程度で参加可能な活動を求めています。

スポーツや文化活動は、健康維持や心のうるおい、生きがいをもたらし、生活を豊かにするうえで大きな役割を果たします。こういった活動に積極的に参加できることが大切であり、そのための情報提供を行っていきます。

働く（働き続ける）ために必要なこと



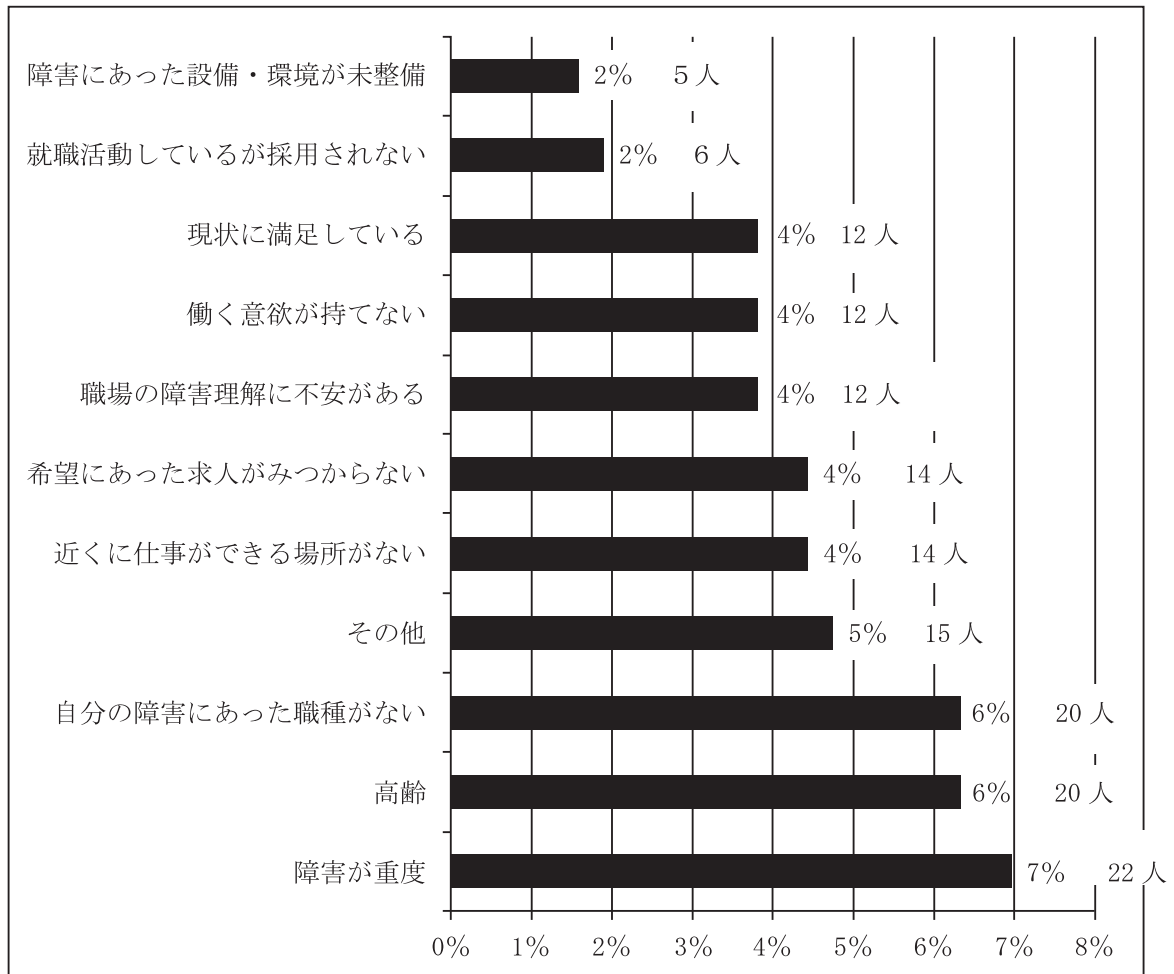
その他の意見（抜粋）

- 障害者に対する社会の理解
- 職場の環境
- 体調

「（障害者自身の）働こうという気持ち」に最も回答が多いです。

国や県の雇用政策を行っている機関、また障害者就業・生活支援センターと連携をし、障害者が働く・働き続ける環境整備を行っていきます。

一般就労していない理由



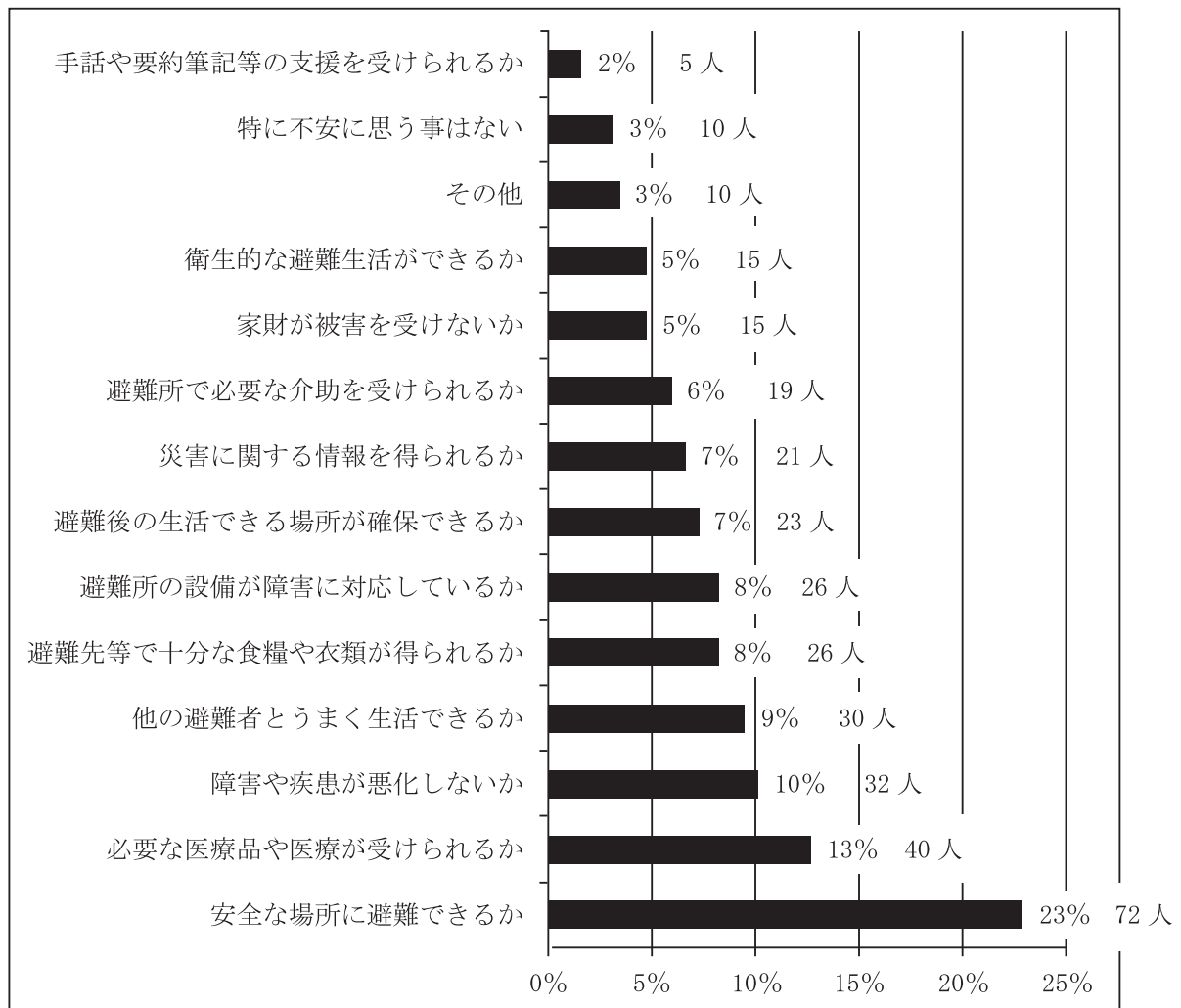
その他の意見（抜粋）

- 身体面、精神面に波があり、今は無理。
- 対人恐怖症あり。
- 現在の医療力に限界があり、病状回復が難しく、体調コントロールが難しい。

「障害が重度」「高齢」「自分の障害にあった職種がない」と就職活動をしていない回答が上位に並んでいます。

就労条件に合う職場を確保する取り組みを官民一体となって進める必要があります。

災害発生時の不安



その他の意見（抜粋）

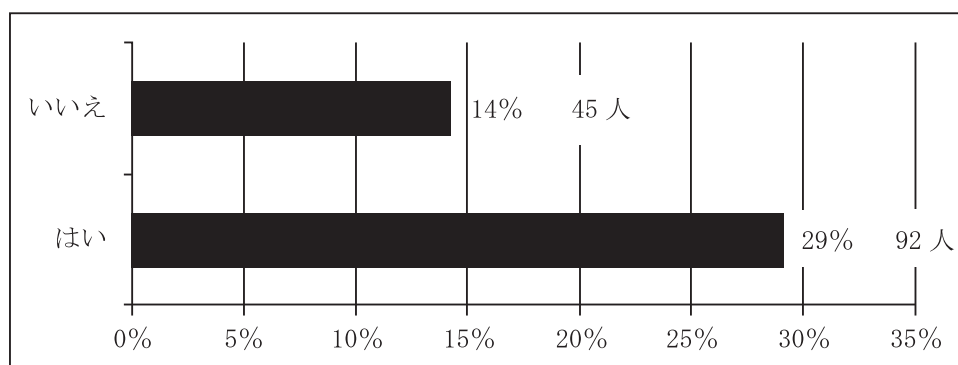
- 難聴の為、避難所で補聴器の確保ができるか。
- 障害者本人が災害を理解できるかどうか分からない。
- 薬が切れること。
- 避難訓練は行っていますが、生活面について深く考えてないと思います。

災害情報をキャッチした後、「安全な場所に避難できるか」の回答が最多です。次いで避難所生活での不安が続いています。

要配慮者台帳（旧 災害時要援護者台帳）の整備・充実をはかり、市の関係機関、民生児童委員、自主防災組織等との情報共有をはかっていきます。

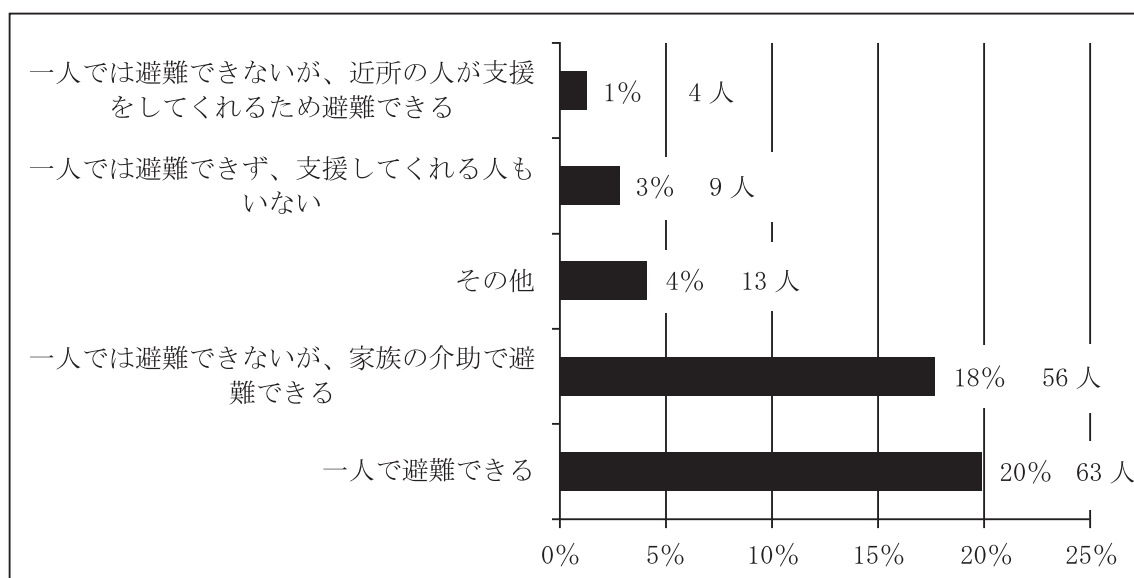
福祉避難所も順次協定を結んでいます。

災害時の避難場所を知っているか



※残りは無回答

災害発生時に一人で避難できるか

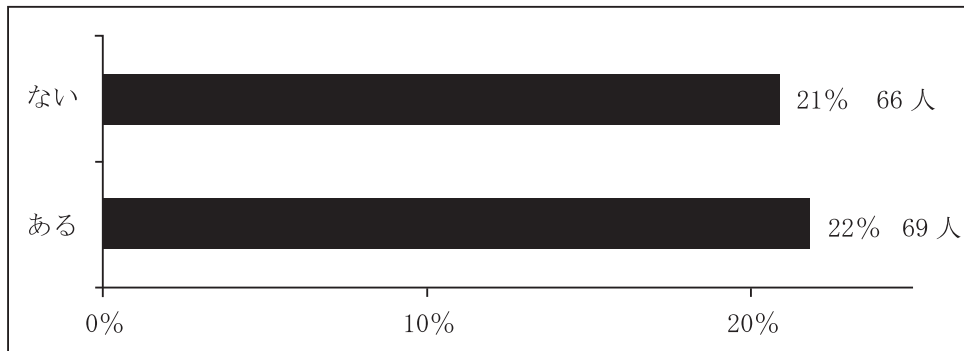


その他の意見（抜粋）

- 避難所では設備が十分でないため、避難しない。
- 父が身体障害者で、母も残せない。
- 避難所へは行かず、自宅で運命を待つ。
- 一人では移動できない。家族がいるが状況によっては支援できない。

「一人では避難できず、支援してくれる人もいない」という回答に少数の人が回答しています。要配慮者台帳（旧 災害時要援護者台帳）の整備・充実をはかり、市の関係機関、民生児童委員、自主防災組織等との情報共有をはかっていきます。

災害時の避難方法に不安



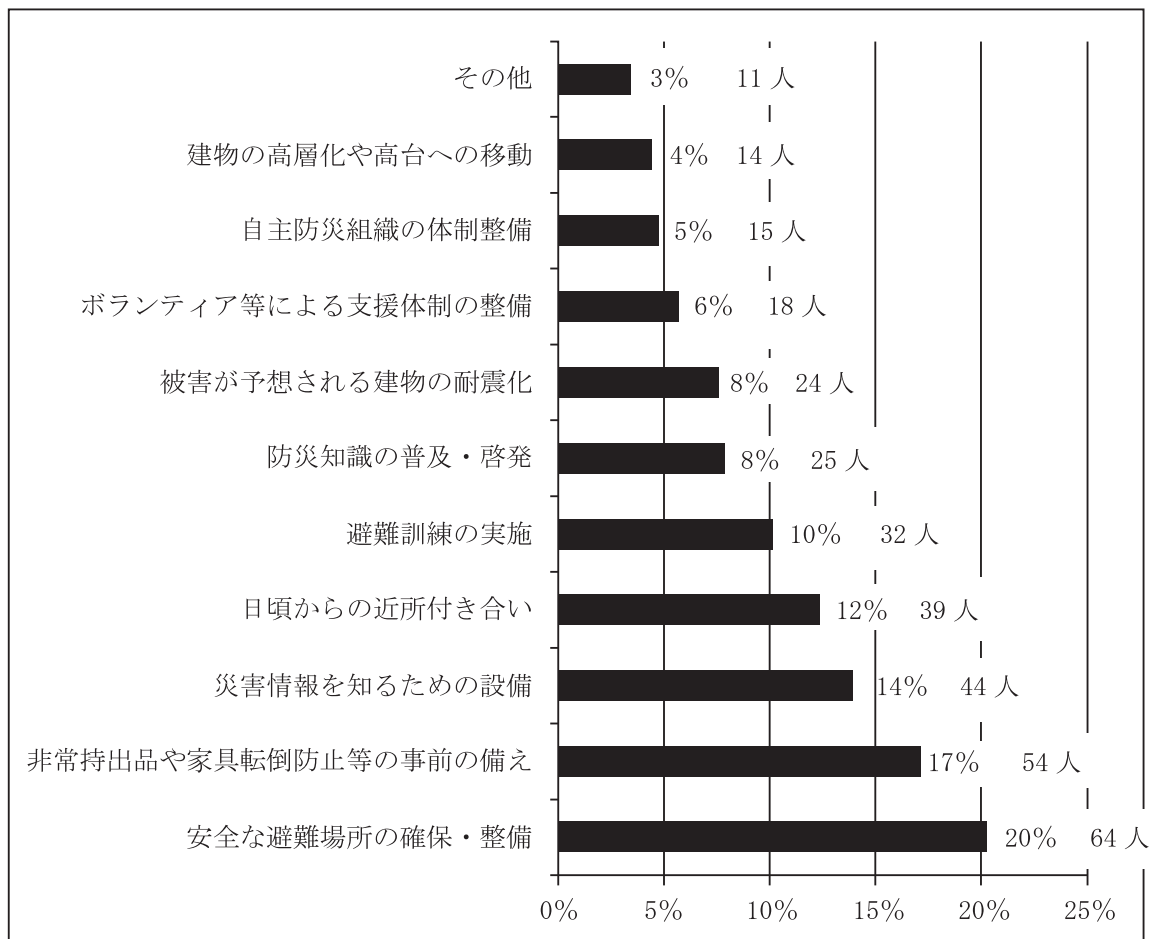
「ある」と答えた人の自由記載より（抜粋）

- 杖をついてゆっくりしか歩けない。
- 避難場所に行き方がわからない。
- 透析のできる場がなくなる不安がある。
- 夜間は無理。
- 歩行困難なため、車いすが必要です。
- 目が見えないので、一人でいるときは避難できない。
- 一人で避難できないので、確実に避難できる方法、人、物を確保しておきたい。
- 津波がきて、高い所へ避難できなかったら、泳げないし、片手ではつかまっていられない。
- 認知症の理解が困難なため。
- 夜が不安です。
- 避難したくない。
- 一人でどうしていいかわからない。
- 耳が不自由。
- パニックになるかもしれない。

障害の程度に応じて、様々な災害時の避難方法に不安があります。

平常時の避難訓練から障害者（要配慮者）本人も参加し、また日頃から避難支援者や避難場所・方法について話し合うことが問題解決への第一歩です。

緊急時に必要だと思う対策

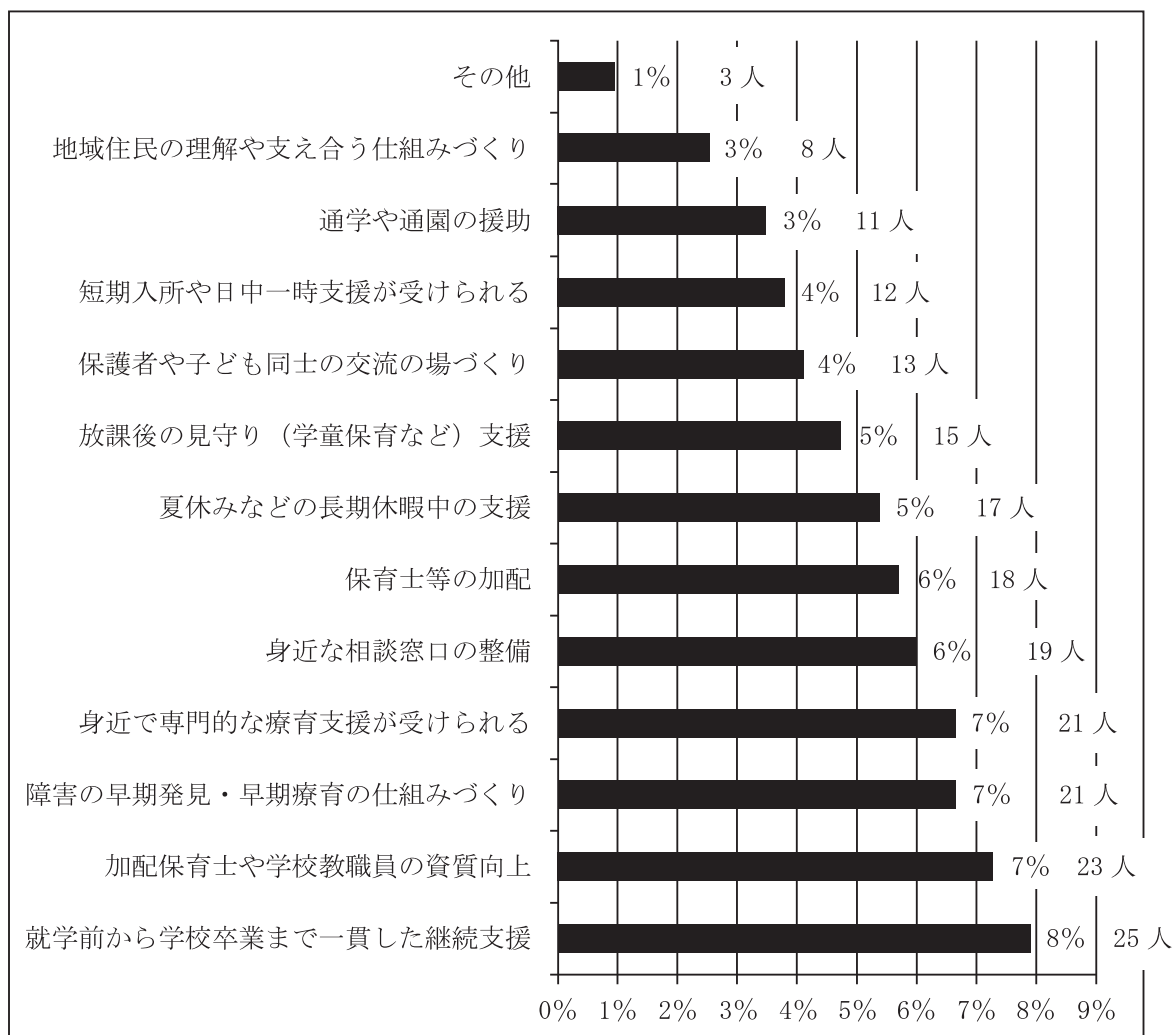


その他の意見（抜粋）

- 避難所の空調設備がないこと。
- 自分のコミュニケーション力。

施設整備のハード面の整備が最多の回答ですが、ソフト面の回答も上位にあります。平常時における事前の準備が災害時に効果を発揮します。

障害児支援に必要なこと



その他の意見（抜粋）

- 発達障害とはどういうものかを、障害児を持たない保護者に説明する機会
- 学童退所になり、仕事を辞めなくてはならなくなった。

障害児の家族は、子どもの成長過程においていろいろな悩みを持ち、家族だけでは解決できないことも多くあります。子どもの成長に応じて必要となる様々な支援を障害児本人はもとより、家族に行うことが求められています。

福祉事務所をはじめ医療・保育・学校など複数の機関による支援及び各部門の資質の向上が求められています。関係機関と連携し、適切な支援体制の整備に努めていきます。